

こやのせ

「平成26年度 全国学力・学習状況調査」号
平成26年10月29日 (児童数 398名)
北九州市立木屋瀬小学校
発行者 豊沢 淳一

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上をめざしています。

1 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

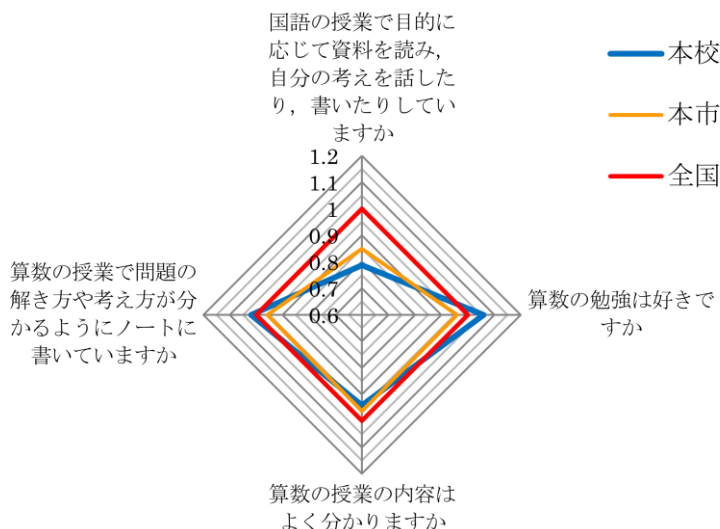
| カテゴリー | 全国平均との比較 | 学力調査の分析(傾向や特徴) |
|-------|----------------|--|
| 国語A | 全国平均正答率を下回っている | 昨年度と比較すると僅かに全国平均より下回っているが、ほぼ同等である。漢字を正しく書いたり、読んだりする基本的な内容の定着に課題がある。 |
| 国語B | 全国平均正答率を上回っている | 全国平均との差が本年度初めて上回った。記述式の問題に対する無回答率も全国に比べ低くなっている。 |
| 算数A | 全国平均正答率を下回っている | 全国との得点差が年度ごとに縮まり、ほぼ同等といえる。チャレンジタイムやティームティーチングの効果が表れている。図形の作図問題に課題がある。 |
| 算数B | 全国平均正答率を下回っている | 昨年度よりも僅かに全国平均を下回り、差が広がったが、ほぼ同等である。示された情報をもとに題意を把握し、理由や考え方を的確に記述することに課題がある。 |

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・国語科の授業で、自分の考えを話したり書いたりしていると答えている児童は全国平均を下回っている。

・算数の勉強が好きという児童は全国平均を上回っている。しかし、授業が分かるという児童は若干下回っている。このことは重要な課題であるが、24年度以前に比べれば、かなり改善されている。全校で算数科の学力向上に取り組んできた成果が見られる。

・算数科では、問題の解き方や考え方を書ける児童が年々増加し、全国平均を上回っている。この力を他の教科にも広げていく必要がある。



2 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

- ・家で宿題をしている児童の割合は、年々増加しており、「宿題を必ずする。」という習慣は定着している。
- ・家庭学習をしている児童の割合は少しずつだが増加している。しかし、一人当たりの家庭学習の時間は全国平均を下回っている。また、授業の復習をしている児童の割合は、全国を下回っている。
- ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合も全国と比較すると下回っている。6年生で70分という家庭学習の目安の時間を達成している児童は、約70%である。家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、家庭学習の具体的な取り組み方や計画の立て方を指導し、点検する必要がある。

② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合は年々増加しており、全国の割合を上回っている。「早起し、遅刻せずに登校する。」という意識は、児童や家庭に定着してきている。しかし、就寝時刻が遅いということが課題である。
- ・帰宅後にテレビを見たりDVDを見たりする時間は、4時間以上の児童の割合が最も高い。視聴時間が2時間以内という児童は30%で全国に比べ、かなり少ない。このことが、家庭での学習時間を確保する上で課題となっている。
- ・友達の前で自分の意見や考えを发表することに抵抗を感じている児童の割合が、全国に比べて高い。

普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか。

| | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----|------|------|------|
| 本校 | 25.4 | 26.7 | 30.0 |
| 本市 | 27.9 | 32.5 | 35.2 |
| 全国 | 33.7 | 37.4 | 38.6 |

※ 視聴時間2時間以下の割合（%）

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること、「○」は今後取り組むこと。

① 教科に関する取組

- ◎ 確かな学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習（読み、書き、計算を中心に曜日を決めて）やチャレンジタイム（5校時開始前の10分間の帯取り）で全校一斉に実施。
 - ・算数科における各学年の重要単元については、チャレンジタイムにおいて集中的に指導するよう、国庫少人数、児童支援加配、教務、教頭、校長等を動員し、基礎基本の定着を図る。
- ◎ ティームティーチングによる2人体制で、きめ細かな指導
 - ・算数科は、全学級、全時間チームティーチングで指導に当たる。
- ◎ 過去問題やアシストシートを活用し、チャレンジタイムの課題や冬休み、春休みの宿題とする。
- ◎ 学習ルール（授業5則）の定着
- 学習の中で考えを出し合う「話合いの時間」を設け、児童の発言をもとにした授業づくりを行う。
- 朝の会や帰りの会でスピーチを取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 木屋瀬中学校区小中一貫連携教育で作成した「家庭学習の手引き」（家庭学習の約束、家庭学習の目安時間等）の活用
- ◎ 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
- ◎ 「家庭学習マイスター賞」への応募の啓発
- ◎ 学年に応じた「自学ノート」の活用
- 全国学力・学習状況調査の結果や課題を学級懇談会や各種便りで説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
- 生活実態アンケートの結果や本校児童の課題に対する取組を保護者に説明し、家庭と学校が協力して子どもを育てる体制を整える。